

芹の水 満つることなく 減ることなく



俳人田村了咲（本名好三）は、明治四十年盛岡市志家に生まれた。

大正十四年、岩手県立盛岡工業学校を卒業後、埼玉県の所沢陸軍航空廠に技術者をして就職。昭和十二年ハルピン航空廠に転属。復員後は、岩手大学附属図書館司書、農学部事務長補佐等を歴任した。

大正末期より所沢で句作を始め、昭和二年高浜虚子の「ホトトギス」に入門。さらに同五年盛岡より「夏草」が創刊されるや、これに抛り山口青邨に師事。写生を骨格とした端正な作風をもって活躍、昭和三十年夏草賞を受賞した、「ホトトギス」「夏草」同人。句集に「楡の杜」「中尊寺馬車」「淋代秋浪」「自註句集田村了咲集」などがある。

この芹の句は、昭和三十四年「夏草」に発表されたもので、代表作のひとつである。句碑は岩手夏草会が中心となり同四十三年に建立された。昭和五十四年、多年にわたる創作活動と、後進の指導に貢献した廉により、岩手県教育表彰を受けている。同五十五年五月、七十二歳の生涯を閉じた。

案内板より

